

俳句を味わう①

赤い椿 白い椿と 落ちにけり

河東碧梧桐

赤い椿の花がおち、白い椿の花もおちてゆく ※様々な見解があります。

季語 椿 季節 春 句切れ なし 切れ字 けり 技法 字余り

バスを待ち 大路の春を うたがはず 石田波郷

バスを待ちながら大通りに立っていると、春が来たとしっかり感じる

季語 春 季節 春 句切れ なし 切れ字 なし

萬緑の 中や吾子の歯 生え初むる 中村草田男

夏らしい緑の景色の中、わが子に初めての白い歯が生えてきた。(色の対比)

季語 萬緑 季節 夏 句切れ 中間切れ 切れ字 や

飛び込みの もう真っ白な 泡の中 神野紗希

飛び込んでたらあつという間に真っ白な泡の中にいたよ

季語 とびこみ 季節 夏 句切れ なし 切れ字 なし 技法 体言止め

くろがねの 秋の風鈴 鳴りにけり 飯田蛇笏

くろがね(黒い鉄)の風鈴が、秋の風にふかれて鳴っているなあ

季語 秋 季節 秋 句切れ なし 切れ字 けり